



湯河原小学校

なかよし班の活動 ～様々な学年の友だちと仲良くなろう～

本校では、学校教育目標「友とのかかわりを広げ、共に学び、共にによりよく生きようとする児童の育成」を目指して、日々教育活動を行っています。

そのために、クラスの友だち・学年の友だち・異学年集団のなかよし班の友だち・交流級の友だち等と様々な係わり合う場面を教育活動の中に意図的に位置づけています。

今月号では、なかよし班の活動について紹介をします。なかよし班とは、1～6年生までの児童が集まって構成されている異学年集団の班のことです。全校で24班あり、ひと班の人数は25人前後です。

6月には、なかよし班の仲間との顔合わせ会がありました。初めてなかよし班の仲間と出会う日で、みんなわくわくドキドキしていました。1年生の教室には、6年生が迎えに来てくれて、やさしいお兄さん・お姉さんと手をつないで、なかよし班の集合場所まで移動しました。1～6年生のみんなが集まったところで、まず自己紹介を行い、その後は6年生が中心になってみんなで楽しく遊びました。あるグループは、宝さがしを行っていました。6年生が隠した宝をみんなで楽しくさがす遊びですが、最上級生の6年生が下級生も楽しめるような遊びを考え、一生懸命



準備をしてくれた様子がよく表れていて、大変微笑ましかったです。

夏休み前には、野外給食も行われました。なかよし班の仲間と一緒に、校庭や教室で、調理員さんが腕をふるって作ってくれたおいしいハンバーガーを食べました。

このようななかよし班の活動は、9月に実施した運動会のなかよし種目や長昼休みを使ってのなかよし班での遊びと続き、学年末の「お世話になった6年生に感謝の気持ちを表そう」という取り組みに繋がっていきます。様々な学年の友だちとふれあうことで、児童は多くのことを学び成長していきます。



吉浜小学校

～自分の気持ちをじょうずに伝えよう～

昨年は、ほかほか言葉や、ちくちく言葉（言われるとうれしい言葉や、いやな言葉）について、学級で取り組んできましたが、今年度は学校保健安全委員会でも心の健康をテーマに、お互いの良さを認め合う、より良い人間関係づくりに取り組んでいます。

前期は、学校のスローガンにもなっている「ありがとう」や「ごめんね」が言えているかなど、7項目についてアンケートを実施しました。挨拶は、ほとんどの児童が「だいたいできている」と答えていますが、相手の気持ちを考え

ながら、自分の気持ちを伝えるのはなかなか難しいようです。

そこでソーシャルスキルトレーニングから、自分の好きな言葉を生活のめあてに選び、1週間意識して過ごしてみました。人気のあったカードは『あいさつは、されてからよりまず自分から』『何かをしてもらったら、ありがとうと口と心で言おう』などです。「あいさつが大きな声で言えるようになった」「恥ずかしかったけど、勇気を出してできてよかった」などの感想がありました。

久しぶりに友だちと会う夏休み



明けは、じゃんけんゲームやビンゴゲームをしながら、休み中の思い出を伝え合うことから始めました。

「楽しかったことは?」「海やプールに行った?」など楽しそうに話しながら、元気にスタートしました。

これからも色々な活動を通して、より良いコミュニケーションの力が身に付くように、また楽しく学校生活が送れるように、見守っていききたいと思います。